



岡 友也氏



林 智広リーダー

簡易情報  
連絡端末

# 「れんら君」シリーズで

NKE

## 設備管理をIoT化

省配線機器は  
更新需要で進

NKE(社長)中村道一氏、本社・京都市伏見区羽東師菱川366-1は工場自動化機器の

開発・製造による技術提供に加え、既存設備への後付けで簡単にIoT(モノのインターネット)を構築できる簡易情報連絡端末「れんら君」を、用途・目的に応じて各種センサーと組み合わせ、パッケージ商品としてシリーズ化している。同端末は工場運営事業者が各パッケージを活用することで、設備や作業環境の情報をIoTで収集し、監視・管理に役立てることができる。同社は「れんら君」シリーズを工場の製造現場に納入しており、リピートオーダーを得ている。また昨年来の傾向では、工場設備を対象に省配線機器の更新需要を得て、自社プラットフォームの省配線機器「ユニライン」への置き換えが進展している。

「れんら君」は、接点出力可能な機器、または各種センサーと接続することで、ビル・工場内の設備稼働状況や環境変化をモニター画面にグラフ表示させる機能や、あらかじめ設定した上限・下限値を超えた時に自動で通知メールを発する機能を有している。設定はパソコンと「れんら君」を同じネットワークに接続するだけ。また「Wi-Fi」

の環境が整っていれば、スマートフォンやタブレット端末でも設定が可能。用途別のパッケージ商品では、温湿度環境の可視化や自動管理に利用できる「温度・湿度パック」、機械の1日当たりの稼働状況をロギングして監視・管理に生かせる「稼働

監視パック」、機器の振動値をグラフ化して機器故障の予知保全に役立つ「振動パック」、屋外でのIoT化に寄与する「屋外用パック」の4シリーズがある。目的別のパッケージ商品では、I/O配線を無線化し、「れんら君」本体にも無線LAN機能を実装した「無

線I/Oパック」、国際規格「ISO」に即した温度管理に貢献する「ISOパック」の2種をそろえる。他方「ユニライン」は電気信号を送受信する制御システムの省配線化を行うユニット。プロクラマブルロジックコントローラーなどのコントロー

ラーから各端末ユニットまでの大量の配線を、独自の伝送方式により4芯ケーブル一本で配線することが可能。「ユニライン」の優位性について、営業部営業支援グループ

の林智広リーダーは「専用配線ではなく汎用の配線を使えることから、配線時の自由度が高い。またスパッタが飛散する作業場や大型モーターのある設備周りなど、ノイズの影響を受ける場所でも使用できる。耐ノイズ性に優れる点も特長」と話す。

省配線機器メーカーが減少している中、NKEは省配線機器を発売し既に30年超の実績を誇るパ

イオニア。それだけに同グループの岡友也氏は「省配線機器という概念を生み出した当社には、昨年来の更新需要の高まりの中で『ユニライン』への置き換えをこ検討頂ける機会が増えている。今年度は例年以上に販売実績が伴っている」と手応えを語った。